

▲ 株式会社ミツウロコグループホールディングス
証券コード：8131

第115期 株主通信

2023年4月1日～2023年9月30日(中間期)

株式会社ミツウロコグループホールディングス

〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目1番1号
TEL:03-3275-6300(代表) FAX:03-3275-6350
mail:ir-sec8131@mitsuuroko.co.jp



●この冊子では、視認性、判読性に優れた
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

ちびまる子ちゃん 「ちびまる子ちゃん」(フジテレビ系列)で
ミツウロコ企業広告CMオンエア中!
©きくろプロダクション/日本アニメーション

Investors' Note ～Mitsuuroko Overview～ 115th

感動を、次々と。

Every Day, Special!

ミツウロコグループの 事業領域



エネルギー事業

LPガス、石油製品をはじめ、自動車用のLPガス、液化天然ガス、さらに、住宅設備機器の販売・施工、通信サービス“ミツウロコ光”、固形燃料、太陽光発電システムやリチウムイオン電池、家庭用燃料電池など様々な事業を行っています。



電力事業

風力発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーの発電事業者として、地球環境改善(CO₂排出量削減)・エネルギー自給率の向上・地域との共生を目指しています。



フーズ事業

清涼飲料水の製造・販売、飲食店や施設内販売・カフェテリアの運営、デリカテリア(MG直営店)およびボランティアチェーンストア、バーガーレストランチェーン、スクラッチベーカリー・カフェの経営等を手掛けています。



リビング&ウェルネス事業

保有不動産や遊休地を活かし、オフィスビル、商業施設などの開発・賃貸や、リビング&ウェルネスをテーマとした商業施設の経営を行っています。



海外事業

アジアを中心に地域のエネルギーや社会インフラの開発に携わり、セルフストレージ運営や企業投資など、グローバル市場における新しい事業展開を進めています。



その他事業

事務用機器や情報通信機器などのリース事業、業務サポート事業、保険代理事業、コンテンツ事業、デジタルマーケティング事業などを行っています。



堅実な事業基盤のもと、地域に根差した
グループの総合力を活かし、
今後も「豊かなくらしのにないて」として、
企業価値の向上および社会の持続的な
発展に貢献してまいります。

代表取締役社長
CEO
田島 晃平

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済情勢は、経済活動の正常化が進んだことにより緩やかな景気回復傾向にあるものの、ウクライナ情勢に加えイスラエル・ガザ紛争による中東情勢の緊迫化など地政学リスクの長期化や急激な円安進行、物価上昇など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

国内エネルギー市場においては、世界規模での脱炭素化の要請、自然災害の頻発化・激甚化に伴うエネルギー安定供給のためのインフラ強靱化の要請の高まりに加え、少子高

齢化や人口減少による需要変化、コロナ禍における生活様式の変化等が生じ、当社グループを取り巻く経営環境は急速に変化しております。

このような状況下、エネルギー事業者は環境適合、安定供給、経済効率の観点から、サステナブルな社会に向けた低炭素化・脱炭素化、安全・安心な社会に向けたレジリエンス強化、安定供給継続・事業継続に向けた経営基盤の強化等を高度かつ迅速に進めることが必要と考えております。

当社グループの主力のエネルギー事業においては、堅実な

事業基盤のもと、地域に根差したグループの総合力を活かし、地域の安定供給を担う主体として、有事にも対応可能な供給インフラの維持と整備を図るとともに、お客様のニーズの多様化、選択志向に合わせた様々な取り組みを行っております。当社の連結子会社である株式会社ミツウロコヴェッセルは、米国の国際NGO団体が認証するカーボנקレジットで、LPガスの採掘から燃焼に至るまでに発生するCO₂をオフセット（相殺）する「カーボンニュートラルLPガス」の販売を開始いたしました。また、同じく当社の連結子会社であるミツウロコグリーンエネルギー株式会社は、再生可能エネルギー主力電源化の普及および電力系統の安定化に向けた取り組みとして、愛知県田原市に系統用蓄電池を設置し、2023年9月20日より運用を開始いたしました。同社は、アグリゲーターとして自社システムを用いて運用を行い、需給調整市場や容量市場などの市場へ参入し、一層の再エネの導入拡大、系統の安定化に貢献すべく取り組んでまいります。

当社は、成長戦略の柱となる事業の多角化を支える基幹システムに「Oracle Fusion Cloud Enterprise Resource Planning（ERP）」とその製品群である、「Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management（EPM）」を採用し、グループ子会社36社を対象に稼働しました。

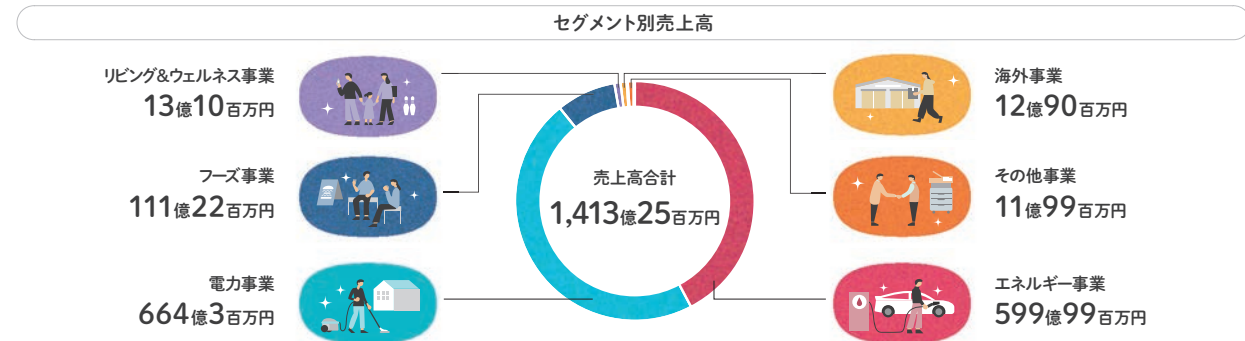
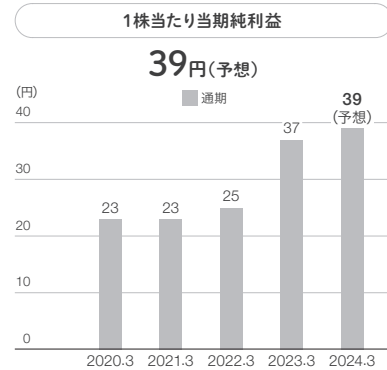
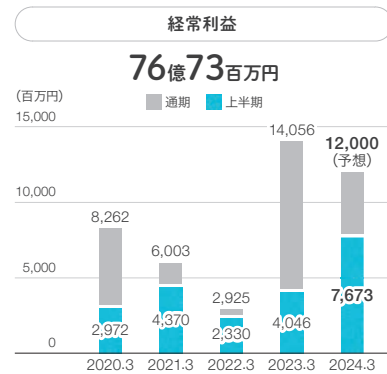
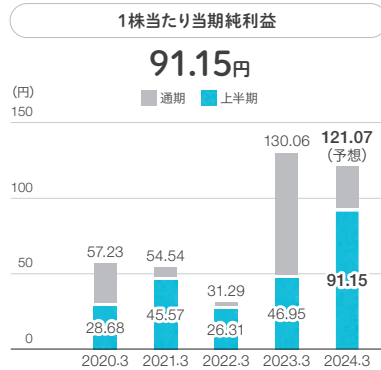
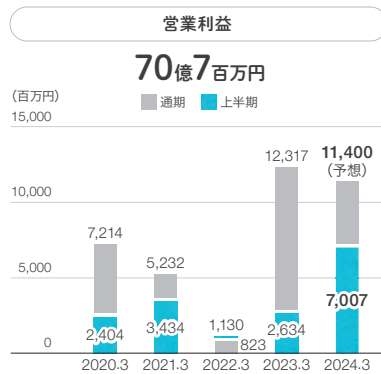
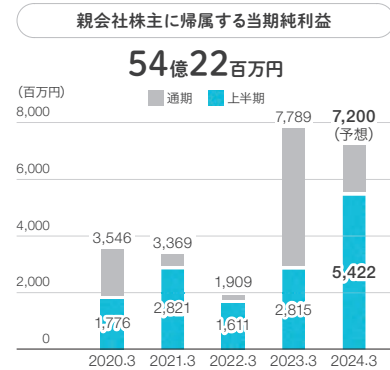
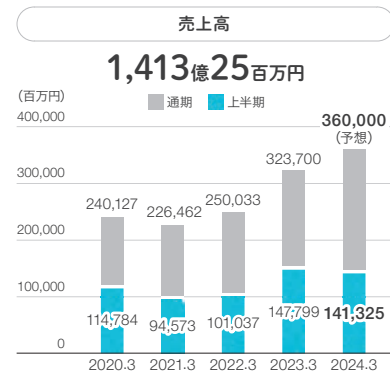
今回の導入により、グローバル共通の標準プロセスが提供され、複数企業の業務を統合し業務効率化を実現しました。Pure SaaSであることで、従来、外部への委託や自社で行っていた保守運用の負荷を軽減しました。また、グループ連結子会社の各会計システムの総勘定元帳からデータをマニュアル操作で収集していた非効率な経理業務をデジタル化しました。これらに加え、業務の属人化を解消し、生産性向上など働く

環境の改善にも寄与しています。当社はこれからも、コーポレートガバナンスの高度化およびサステナビリティへの取り組みを推進し、持続的な成長および企業価値の向上に努めてまいります。

グループ全体の業務効率化としては、グループのシェアードセンターであるミツウロコ事務センターにおいて、DXの概念のもと、RPA（Robotic Process Automation）による業務自動化によりグループ内の間接業務コストを削減するとともに、AI-OCRの活用により業務のペーパーレス化を進め、シェアードセンターのリモートワーク移行も実現しております。今後も最先端技術を取り入れた業務効率化ツールの利用を進め、更なるグループの生産性向上を目指してまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績としては、平均気温の上昇や節約志向の高まりによるエネルギー事業における販売数量の減少や、フーズ事業の飲料水工場の稼働停止期間、リビング&ウェルネス事業の商業施設の休業期間等があったものの、飲料水事業の生産力拡大や原価低減への取り組みおよび電力事業の収益改善の取り組みがグループの収益に貢献し、売上高は前年同期比4.4%減の1,413億25百万円、営業利益は前年同期比166.0%増の70億7百万円、経常利益は前年同期比89.6%増の76億73百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比92.6%増の54億22百万円となりました。売上総利益、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、第2四半期連結累計期間の過去最高益を更新しております。

株主の皆様におかれましては、当社グループの経営活動をご理解いただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※ 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前年上半期の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

TOPICS

ミツウロコグループ
ホールディングス
所属契約選手のご紹介

まつもと かつひろ
松元 克央選手



松元克央選手は、2017年に初めて日本代表に選出され、これまで数々の大会で好成績を収めてきた日本を代表する競泳選手です。

新たな領域への挑戦を続けるミツウロコグループは、世界の舞台で活躍する松元選手のゆるぎない精神と、その挑戦し続ける姿勢に共感し、より一層の飛躍を共に目指したいとの思いから2022年4月より同選手と所属契約を締結しております。これからもミツウロコグループは、松元選手を応援してまいります。

松元選手からの
COMMENT

いつも温かいご声援誠にありがとうございます！
9月に行われたアジア大会100mバタフライで金メダルを獲得することができました。パリ五輪の前年にアジアで1位を獲得できたことは必ず来年のパリ五輪に繋がると考えています。
僕自身最大の目標はパリ五輪での“金メダル

獲得”です。決して簡単な目標ではありませんが、覚悟を決めてどんなに辛いトレーニングでも取り組んでまいります。ご支援をいただいていることへの感謝を忘れずに、結果にこだわって全力を尽くします。
これからも応援よろしくお願いいたします！

直近の大会成績

「アジア競技大会杭州2022」(2023年9月24日～29日:中国杭州市)

※コロナ禍の影響で1年間の大会延期

大会結果	金メダル獲得	100mバタフライ:51秒13
	5位入賞	100m自由形:48秒72
	6位入賞	200m自由形:1分48秒95
	銅メダル獲得	男子4×200mフリーリレー:7分06秒29
	銅メダル獲得	男子4×100mフリーリレー:3分14秒26
	銅メダル獲得	男子4×100mメドレーリレー:3分32秒52

「第65回日本選手権(25m)水泳競技大会」(2023年10月21日～22日:東京アクアティクスセンター)

大会結果	優勝	50m自由形:21秒26
	優勝	100m自由形:47秒12
	優勝	200m自由形:1分42秒50
	優勝	400m自由形:3分40秒79

事業について

ミツウロコグループは、地球にやさしいエネルギーと生活周辺サービスを中心に豊かなくらしづくりに貢献する企業グループとして「エネルギー事業」、「電力事業」、「フーズ事業」、「リビング&ウェルネス事業」、「海外事業」、事務機器などのリースや業務サポート、保険の取り扱いを行う「その他事業」を展開しています。

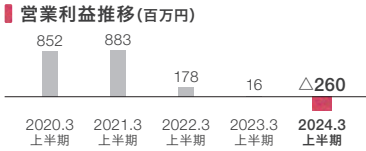
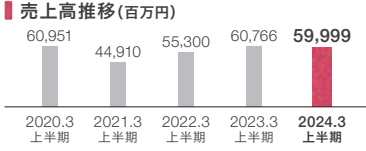
※ 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前年上半期の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。



エネルギー事業

売上高 **599億99百万円**
前年同期比 1.3%減↓

営業損失 **2億60百万円**
(前年同期は16百万円の営業利益)



当上半期のポイント

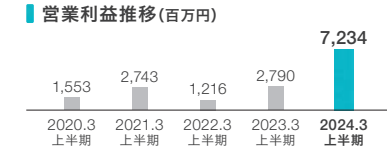
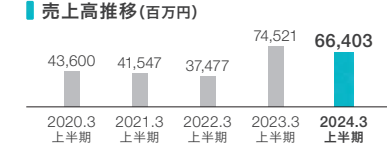
- 節約志向の高まりと平均気温の上昇によるLPG販売数量の減少、LPG仕入価格下落の影響が、棚卸単価に反映されるまでに一定のタイムラグが生じること、今後の成長に向けた人財投資としてのベースアップを実施したことなどにより減収減益。
- 地域社会への貢献として、地方創生臨時交付金を活用したLPガス料金上昇抑制対策を各県にて実施。



電力事業

売上高 **664億3百万円**
前年同期比 10.9%減↓

営業利益 **72億34百万円**
前年同期比 159.2%増↑



当上半期のポイント

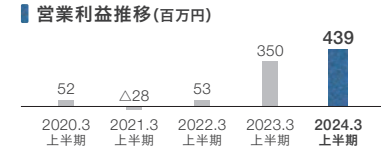
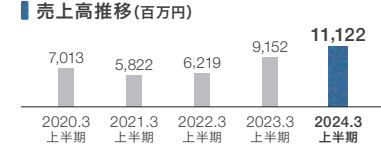
- 電源調達量に応じた電力供給の実施、電力卸売市場からの調達比率の低減等、電源調達先の分散化を進展させることで価格高騰の影響を抑えるとともに、販売単価の改善を推進し、増収増益。
- 再生可能エネルギー主力電源化および電力系統の安定化に向けた取り組みとして、愛知県田原市に系統用蓄電池を設置し、2023年9月20日より運用を開始。



フーズ事業

売上高 **111億22百万円**
前年同期比 21.5%増↑

営業利益 **4億39百万円**
前年同期比 25.3%増↑



当上半期のポイント

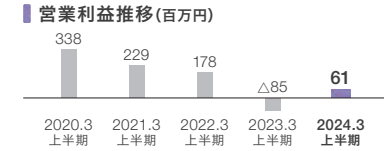
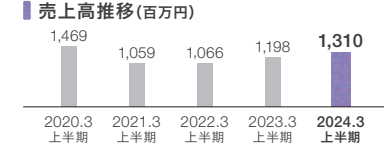
- 飲料水事業において、静岡ミツウロコフーズ(株)庵原工場の一部設備更新による一時的な操業停止等があったものの、積極的な営業展開による販売数量拡大により製造原価高騰の影響を低減させたことから増収増益。
- ミネラルウォーターの販売数量が計画を上回るペースとなっており、前年同期比では約109%と堅調に推移。



リビング&ウェルネス事業

売上高 **13億10百万円**
前年同期比 9.4%増↑

営業利益 **61百万円**
(前年同期は85百万円の営業損失)



当上半期のポイント

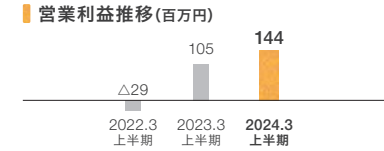
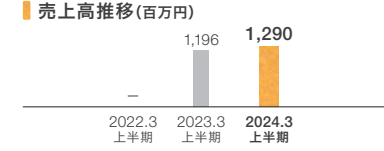
- ウェルネス事業において施設の休業期間の発生及び改修費用の増加等の影響があったものの、ハマボールの来場者数および売上高は、ともに順調に回復しており、不動産事業において2022年9月に取得した賃貸物件の安定稼働などにより増収増益。
- 2023年8月に東京都世田谷区深沢の駒沢通り沿い角地の賃貸マンション「桜樹高山」を取得。
- スポーツ事業では、2023年4月12日より自由が丘にスポーツスタジオ「EIGHT ANGLE(エイトアングル)」をオープン。



海外事業

売上高 **12億90百万円**
前年同期比 7.8%増↑

営業利益 **1億44百万円**
前年同期比 36.4%増↑



当上半期のポイント

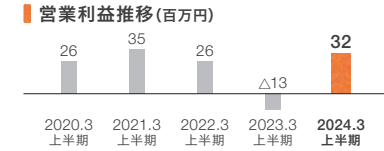
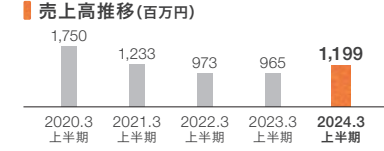
- 当事業では主として、General Storage Company Pte. Ltd. 他6社がアジア地域においてレンタル収納事業を行っており、円安の影響等により増収増益。
- アジア地域における業界団体「Self Storage Association Asia」が主催する「Self Storage Awards Asia 2023」にて、全7部門のうち2部門(「Multi-site Operation Store of the Year」および「Manager of the Year」)にて、当社グループより1拠点、3名が入賞。



その他事業

売上高 **11億99百万円**
前年同期比 24.2%増↑

営業利益 **32百万円**
(前年同期は13百万円の営業損失)



当上半期のポイント

- リース事業の売上総利益率の改善等により増収増益。
- LPガス販売管理システム「COSMOSシリーズ」、および集合住宅へのインターネットマンションサービスである「ミツウロコnet」を拡販。
- リース事業において、脱炭素機器の普及に取り組むとともにEV車両の普及に合わせ取扱車種を拡大し、ESGの推進に貢献。
- コンテンツ事業にてオリジナルのホラー&ミステリードラマ、発酵食品の魅力に触れる旅行番組等を企画、放送。

くらしを支える みらいを育てる 「エネルギー事業」

株式会社ミツウロコヴェッセル代表取締役社長
まつもと たかし
松本 尚志

ミツウロコグループの「エネルギー事業」

ミツウロコグループのエネルギー事業はLPガス、灯油や、ガソリンといった石油製品のみならず、住宅関連機器、太陽光発電システム、蓄電池、家庭用燃料電池、通信ネットサービスなど様々な商材を扱っております。それは、ミツウロコグループの経営理念である「豊かなくらしのにないて」として、お客様のニーズに合ったものをご提供させていただくためです。

私どもには、当社と直接お取引いただいているお客様に加え、全国で約1,800社から構成される全国ミツウロコ会の会員店様を通じてお付き合いいただいている皆様と合わせて約80万世帯のお客様がいらっしゃいます。このように多くのお客様との接点をもてたのは、長きにわたりエネルギー供給者として安全・保安第一で安定供給の責任を果たし、全社を挙げてカスタマーフォーカスで活動してきた結果、お客様の信頼を得られたからだと思っています。

我々の安全・保安第一、カスタマーフォーカスという姿勢は、今後も変わることはなく、更に深化させていく所存です。

既存ビジネスの深耕と効率化を図りつつ、 カーボンニュートラルを成長のチャンスに

現在のエネルギーを取り巻く環境は、少子高齢化や技術革新、カーボンニュートラルへの対応と、需給構造が大きく変わりつつあります。世界的な流れとして脱炭素化に向かっていますが、現時点では安定的で経済効率性も高く、加えて環境にもやさしいという完璧なエネルギー源はありませんから、今後も化石燃料の重要性が変わることはありません。ですから、私どもは、既存のビジネスの更なる深耕と効率化を図って参ります。例えばLPガスにつきましても、少子高齢化により利用世帯数は減っていますが、化石燃料の中では環境負荷が低いことやパイプラインの必要のない分散型のエネルギー源であるといった特徴を活かし、新たな需要開拓を行ってまいります。

その一方、カーボンニュートラルは「成長のチャンス」と捉え、実現に向けた取り組みも一層強化していきます。具体的には自家消費に特化した太陽光発電システムの販売や省エネ機器によるエネルギー削減ソリューションの提案などがあります。

今年の2月に閣議決定されたグリーンTRANSフォーメーション(GX)実現に向けた基本方針に基づいて、今後様々な施策が打ち出されてくるでしょうから、これまで以上に政府の方針や技術開発の進捗といったことに高いアンテナを張って、臨機応変に対応してまいります。またエネルギー事業においても、太陽光を中心とした発電事業、蓄電、電力供給と新しいビジネスチャンスを電力事業のミツウロコグリーンエネルギーとグループシナジーを発揮して展開していきたいと思っています。

次の100年への礎を築く

私が組織のマネジメントをする上で大切にしていることが3つあります。1つ目は、本来あるべき姿を描き原理原則から考えること。2つ目は、自分たちがコントロールできる領域に注力すること。3つ目は、社内外に明確なメッセージを発信することです。特に社内には「今、何のためにこの仕事をやるのか」という仕事の目的を共有し、当事者意識を高め、言われたことをやるMustから、できることをやるCanとなり、自発的にやるWillへと成長を促しています。

ミツウロコグループは2026年に創立100周年を迎えます。日本には100年企業が4万社以上ありますが、その共通点は「不易流行」という言葉に集約できると私は考えています。「不易」とは、企業の変わらない使命や価値。「流行」とは、変えていく日々の活動です。つまり、普遍的な本質を持ちながら新たな変化を取り入れるということです。ミツウロコヴェッセルは、2030年に向けて、「くらしを支える、みらいを育てる」というビジョンを掲げております。実は「くらしを支える」は昔からミツウロコグループがやってきた不易であり、「みらいを育てる」は環境や顧客ニーズの変化を捉え、日々企業活動を変化させていくことですから、我々のビジョンはまさしく不易流行なのだということ年全国の営業拠点を回り、現地の社員と共有しています。

ミツウロコグループは練炭から石油、ガスとエネルギーの変革期を着実に捉え、成長してきました。今まさにエネルギー業界が大きく変わろうとしている時、ミツウロコグループに脈々と受け継がれてきたDNAを大切にしつつ、次の100年への礎を築いていきたいと思っています。これからも皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

パリ五輪への出場の夢を叶えます

ミツウロコグリーンエネルギー株式会社
総務部

みぞはた じゅらん
溝畑 樹蘭

ミツウロコグループ初のアスリート社員

2023年9月1日にミツウロコグリーンエネルギー株式会社に入社した溝畑樹蘭と申します。ミツウロコグループのアスリート職社員制度の第1号になります。ミツウロコグループのサポートを受けながら水泳選手としてパリオリンピックの出場を目指しています。

私たちアスリートは、競技に専念できる環境を必要としています。現実的にはそんな環境を作るのは容易ではありません。経済的な面でも、引退後のセカンドキャリアについても不安がつきものです。そのような中、ミツウロコグループのアスリート職は、正社員として雇用が確保されることで、経済面でもサポートを受けることができ、引退後はミツウロコグループで働くことができます。アスリート職として採用されたことで、オリンピック出場に向けて集中できる環境が整ったと思います。

私の水泳人生とオリンピック

私が水泳を始めたのは幼稚園の頃です。近所の駅前にスイミングスクールができて体験に行ったところ、水泳が楽しく感じて始めました。当時、私の父親や親戚は野球をやっていたのですが、私はボールが怖かったという思い出があります。

小学校3年生の時には選手コースといって競技大会に出場するチームに参加するようになりました。その時に初めて全国大会に出ることができて、地元の兵庫県から東京まで来て試合に出ました。それがきっかけで水泳選手として頑張ろうという気持ちになりました。

その後も中学校、高校、大学と選手生活を続けてきて、高校ではインターハイ総合2位、大学ではインカレで2度優勝することができました。でも、水泳はタイム競技でもあるため、優勝したからといって、オリンピックに出場できるとは限りません。標準記録を突破し、なおかつ1種目2人までという厳しいルールがあります。高校まではタイムがあまり伸びなかったのでオリンピックはもっとすごい人が行く舞台という感じで、自分には現実感のない夢でした。ところが、大学に入ってからタイムが順調に伸び始めていって、夢でしかなかったオリンピックがだんだんと目標へと変わっていきました。自分の順位が上がっていって、タイムが縮まっていく中でオリンピックへの想いが強くなっていきました。

ミツウロコとの出会い

ミツウロコに水泳部があることを知ったのは社会人1年目に社会人選手権に出場した際です。そのあと、2022年の年末にミツウロコ水泳部所属の選手の合宿に参加する機会があり、

その選手に悩みや不安を相談しました。そのことを覚えていてくれて、それがきっかけで「ミツウロコグリーンエネルギーのアスリート職社員にならないか」というお誘いをいただきました。

私は25歳ですし、オリンピック出場はラストチャンスかもしれません。2024年3月に開催されるパリ五輪選考会で自由形第2位までに入れば個人種目で、第4位までに入ればリレーで代表入りが決定します。この大事な時期に環境を変えるということは賭けでもありましたが、思い切ってミツウロコグリーンエネルギーへの入社を決めました。

今は会社のサポートのもと、競技に集中できる環境で、オリンピック出場に向けて日々トレーニングを重ねています。

アスリート職第1号社員として

ミツウロコグループにとってもアスリート職は初めての試みです。だからこそ、オリンピック出場を実現して、採用していただいたことへの期待に応えたいです。先駆者として成功事例をつくることによって、後に続くアスリートにミツウロコグループに入るという選択肢をつくっていきたいと思います。

また、自分がオリンピックに参加することで、ミツウロコグループの社員、ステークホルダーの皆さんが水泳に興味を持つきっかけになりたいと思います。

自分自身のためにも、皆さんのためにもオリンピック出場を実現します。

直近の大会成績

「第65回日本選手権(25m)水泳競技大会」
(2023年10月21日～22日:東京アクアティクスセンター)

大会結果

第3位

100m自由形:47秒56

第3位

100m個人メドレー:53秒28

会社概要

社名	株式会社ミツウロコグループホールディングス
英文社名	Mitsuuroko Group Holdings Co., Ltd.
主な事業内容	持株会社(グループの経営戦略・経営管理)
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目1番1号
創立年月日	1926年(大正15年)5月10日
資本金	70億77百万円
従業員数	28名／連結1,792名(2023年9月30日現在)

役 員

(2023年9月30日現在)

代表取締役社長 CEO	田島晃平
取締役 社長補佐(グループファンクションズ)コーポレートセクレタリー	児島和洋
取締役 社長補佐(グループシナジー)	松本尚志
取締役	坂西 学
取締役	川上 順
取締役	大森基靖
取締役 CTO、CIO、GCIDO	ゴ ウィミン
取締役(社外)	柳澤勝久
取締役(社外)(独立)	松井 香
監査等委員である取締役(社外)(独立)	菅原英雄
監査等委員である取締役(社外)(独立)	河野義之
監査等委員である取締役(社外)	田嶋 圭

株式の状況

(2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	197,735,000株
発行済株式の総数	60,134,401株
株主数	4,431名

上位株主

(2023年9月30日現在)

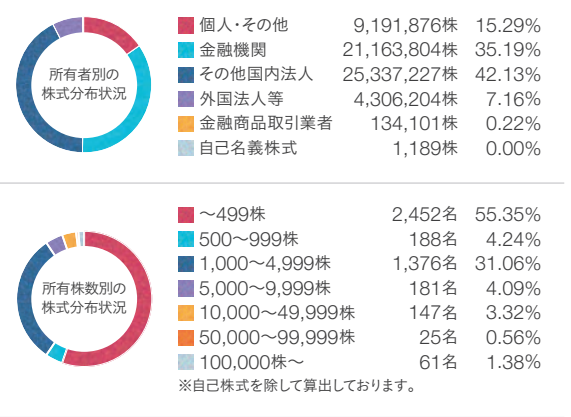
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
明治安田生命保険相互会社	4,990,000	8.30
ENEOSホールディングス株式会社	4,564,040	7.59
田島株式会社	4,327,000	7.20
損害保険ジャパン株式会社	3,681,173	6.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,140,600	5.22
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口	3,003,900	5.00
リンナイ株式会社	2,694,064	4.48
橋本産業株式会社	1,926,500	3.20
全国ミツウロコ会持株会	1,765,584	2.94
株式会社パロマ	1,685,124	2.80

(注)1.当社は自己株式を1,189株(株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社の株式520,300株を除く)保有しています。

2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社の株式は、持株比率の算定上、発行済株式総数から控除する自己株式からは除外しています(2023年9月末520,300株)。

分布状況

(2023年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(https://www.mitsuuroko.com/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

郵便物送付先・お問い合わせ先

郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部	
お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324(未払配当金の受領など)	
ご注意	住所変更、単元未満株式の買取および買増請求等のお申し出先につきましては、株主様が口座をお持ちの証券会社にお申し出ください。 ただし、株券電子化に際して、株券を証券会社の口座に入庫しなかった等の理由により、特別口座において管理されている株式の場合は、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行が住所変更等のお申し出先となります。	
	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部	
電話お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)	
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いきませんのでご了承ください。	
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店、みずほ銀行 本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「証券会社等に口座をお持ちでない場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。